

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700018		
法人名	有限会社 あい케어		
事業所名	グループホーム 恵那苑 A館		
所在地	岐阜県恵那市大井町丸池2714番地549		
自己評価作成日	令和4年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191700018-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな立地を生かし、外にテーブルをだしてのんびりお茶を飲みながら、畑で野菜の収穫や手入れをしたり、つくしをとったりし、その収穫した野菜を利用した食事の献立を利用者様と一緒に考えたり、いちご狩りなど恵那苑の敷地内で行なうことのできる、外での行事を増やして、コロナ禍で外出が思うように出来ない利用者様に楽しんで頂ける様、工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍によって様々な支援が制約を受ける中、職員の工夫によって利用者の閉塞感が軽減されている。地域との交流や外出支援等は大きな影響が出ているが、積極的にホームの外(庭)に出ることにより、利用者にとりこれまで通りの日常を提供している。
恒例のいちご狩りには行けなかったが、庭に仮設のいちご棚を設置し、利用者はいちご狩りの雰囲気を感じた。職員のアイデアが活かされた実例である。
畑で季節の野菜(えんどう、トマト、玉ねぎ等々)を育てており、春には収穫したばかりのジャガイモを使ったパーティーが開かれ、秋はさつま芋パーティーが開催される。これらの野菜は、女性職員のご主人がボランティアで世話をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム、玄関等目の届く所に掲げ、いつでも確認できるようになっています、更にミーティングでどの様に実践に繋げていくかを話し合い取り組んでいます。	利用者個々を尊重することを柱とした理念を掲げ、玄関や事務室、各ユニット内に掲示している。変換アプリを駆使し、外国人の職員も理念の理解に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの為、地域の行事がすべて中止となり、交流できる機会がありませんでしたが、今年は花火大会があり利用者様と花火を楽しむことが出来ました	ホーム前の道路が小学生の通学路になっており、数年前、小学生に時間を告げるための時計を設置した。今も正確に時を刻んでいる。回覧板で、地域行事の中止の連絡が来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板や運営推進会議を利用し地域の方々へ向けて情報発信をし認知症について理解、支援・参加して頂けるよう促しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	恵那苑での運営推進会議は出来ませんでしたが、包括、市役所、自治会、ご家族様に現状報告を文章で行い、質問等返信を頂き今後の業務に活かしています。	過去1年間の運営推進会議は、6回すべてが書面開催となっている。会議メンバーからの返信(質問等)があれば、すべての会議メンバーに内容を知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市から書面にて意見や質問を頂いたり、行政との互いの協力やケアサービスの向上、周知に取り組んでいます。	生活保護受給者が1名入居していることから、介護保険関係以外にも市との関わりがある。コロナ禍によって社会福祉課職員のホーム訪問はなく、法人代表が担当課を訪問して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員周知しており、マニュアルを作成したり、県主催の研修に参加したりして、ミーティング、運営推進会議でも取り上げ、事例を参考にし、知識の向上と理解に役立てるよう取り組んでいます。	「身体拘束廃止に関する指針」があり、利用開始時に身元引受人(家族等)から同意を得ている。身体拘束適正化の委員会は、2ヶ月毎の運営推進会議の中で行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加し内容を共有し、マニュアル等も参考にしながらミーティングで話し合いをし防止に努めています。常に身体観察に気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には制度について理解してもらい、個々に合わせて対応し、必要に応じ今後活用していこうと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者または職員立ち会いの下、家族と丁寧に話をさせていただいています。例を挙げ質疑応答で双方納得した上で契約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の会話から要望を聞いたり、家族様にはケアプランの返信や、電話で生活の様子をお伝えし、意見を頂いたりして、ケアプランや運営に反映させています。	現在は事前予約をしたうえで、玄関先で短時間の家族面会を認めている。その折に家族の意見を聞き取っていたが、コロナ禍によって来訪する家族は少ない。電話を使って、意見・要望の聞き取りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で全員ミーティングは難しく、代表者が管理者、職員から個別に話を聞いたり、管理者が職員の意見を代表者に伝えたりと、積極的に意見交換をしています。	コロナウイルスの感染防止の観点から、密となる全員ミーティングの開催を見合わせている。法人代表が毎月給与明細書を手渡ししており、その際に職員意見を聞き取るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の労働状況を把握し、代表と話し合いをしながら出来る限り、就業環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修、連携医の講習には参加できるようにシフトを調整しています。研修後、資料を他の職員に読んでもらったり、内容を報告する機会を作って全職員に周知しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換等を行っています。他のグループホームとの交流の場がもっと多くあれば良いと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族、ご本人と面談し、今までの生き方、要望、情報を聞き取り。担当のケアマネや職員にも相談、笑顔で対応し安心生活できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族に来苑して頂き、話を聞いて家族・本人が一番良い方法を一緒に考え、出来る限り要望に応え、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からお話を聞き、本人の気持ちもふまえ、事前の情報を職員で話し合い、まずは施設の生活に慣れて頂けるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを見極めて、出来ることは本人のペースに合わせてやって頂くようにしています。生活の場なので、声掛けしお手伝いをお願いすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルスの為、面会・外出をお断りしており、たよりや電話で日頃の様子をお伝えし、相談をさせて頂き、気軽に話をして頂ける関係を築くよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙等の支援をしています。ZOOMや電話でお話しが出来る旨をお伝えしたり、毎月郵送で写真付き「恵那苑便り」にて近況をお伝えし、気軽に声掛けして頂けるよう支援しています。	コロナの感染状況が下火となり、春の恒例行事である花見が久しぶりに行われた。馴染みの場所「恵那峡」まで出かけ、利用者と職員がリフレッシュして帰ってきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の状態を把握し、職員が間に入り、話題やきっかけを作ったり、利用者同士が共に楽しく生活を送れるような関係作りを支援し、楽しく過ごして頂ける様、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所を控えた家族に「お困りの事がありましたら」と退所後の利用者及び家族の相談等、声掛けをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で利用者から思いを聞き出し、管理者・ケアマネ・職員、時には家族と話し合いをし、希望に添えるよう誠意をもって対応するよう努めています。	利用者の思いを叶えようと、職員は利用者の意向の汲み取りに努めている。意向を表出できない利用者は、日々の様子や家族等から得た情報を基に、職員が意向を推測してケアプランにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談にて、ご家族・ケアマネから生い立ちや生活歴を聞き、ケアプランに活かし、出来る限り今までの暮らしに近い状態で過ごせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方・様子は生活記録・申送ノートに残し把握するよう努めています。ケアマネ・担当医からの情報も職員に把握してもらい日々の現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ご本人、ご家族からも話を聞き、随時、見直しを行いケアプランを作成しています。	週に1日出勤する介護支援専門員が職員意見を集め、利用者の思いを叶えるための介護計画を作成している。介護計画の見直しは、3ヶ月毎に行われている。	利用者の意向が介護計画書第1表の「援助の方針」に展開されず、結果として介護計画の目標に反映されていない事例があった。意向→方針→目標の連動が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・送りノート等、記録を資料としケアプランを作成しています。ミーティングでも利用者一人一人について情報を共有し、介護計画の見直しについて話し合いをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に合わせ、柔軟に対応をしています。家族から要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行う様に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの為に地域のイベント等が中止となってしまう大変残念ですが、利用者の心身状態を把握し、外出出来なくても楽しく過ごせるようスタッフ皆で工夫しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医のままか、月2回訪問診療してもらえる提携医かをご家族に決めて頂きます、歯科等もご家族からの希望があれば支援しています。	2つの医療機関を協力医とし、それぞれの協力医が2週に1度の訪問診療を行っている。調査日当日に訪問診療があり、コロナ下、利用者は玄関横のスペースで受診していた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時と、週に1回看護師に来てもらい相談し病院受診の判断等に反映させています。急変時にはかかりつけ医や看護師に連絡し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者に合った対応が出来るよう連携に努めています。退院後はサマリー等を参考にその後のケアに活かせるよう心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には終末期のあり方について、家族・管理者・看護師・主治医・ケアマネで、場合によっては、ターミナルも視野に入れ話し合いをし、出来る限り家族の希望に添える様努めています。	「看取り及び医療連携体制に関する指針」があり、利用開始時に説明して利用者、家族の同意を得ている。家族の意向、協力医の所見、ホーム(職員)の状況等を勘案し、条件が揃った場合に看取りを行っている。直近に2名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。消防署主催のAEDを使った救急救命講習を受けたり、ミーティングで対応の確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練と他に1度の自主訓練、合計年2回行っています。ハザードマップを利用し、地域の方と協力し対応出来るよう自治会との連携をとっています。	ハザードマップ上では、災害警戒無指定地域である。年間2回の防災訓練を行い、1回は消防の立合いがある。3日分の食糧備蓄を持ち、停電に備えてカセットコンロも用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら、穏やかに過ごして頂けるようコミュニケーションをとり、個人に合わせたケア・言葉かけを心掛けています。	利用者一人ひとりを尊重することが理念として謳われ、職員周知が図られている。利用者の呼称は特に決められたルールがなく、苗字や名前に「さん付け」をして呼んでいる。	利用者の呼称については、利用開始時のアセスメントで、利用者本人や家族の意向(どのように呼んで欲しいか)を聞き取っておくことが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から希望や思いをくみ取り、色々な場面で自己決定出来るような状況を作ったり、声掛け・見守り等支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活習慣の流れの中で一人一人の体調や気分配慮・尊重し穏やかに過ごして頂けるようなケアを心掛け支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は定期的に美容師に訪問してもらいます。髪を梳いたり、髭剃りなどは支援しています。入浴時の着替や季節の洋服の入れ替えは会話をしながらご自分で出来る様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる様に、献立は季節感や昔からのある料理を取り入れ、利用者と一緒にメニュー決めていきます。3時のおやつもホットケーキ等一緒に作ったりもしています。	3食手作りの食事を提供している。ホームの畑で野菜作りをしており、女性職員のご主人がボランティアで野菜の世話をしている。春(じゃがいも)・秋(さつまいも)には、庭でパーティーが開かれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものをバランス良く献立し、量や形態については個々に対応する事で栄養の確保に努めています。水分補給は食事・お茶の時間、それ以外の時間でもスポーツドリンクなどを用い、摂取量も把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、出来る方は自身で洗って頂き必要に応じて介助しています。週に1度は義歯を預かり洗浄剤を使用しています。場合によっては歯科医に受診をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握(排泄チェック表を活用)しており、時間をみながら早めに声掛け誘導をしています。	トイレでの排泄を基本として支援しているが、夜間は自室のポータブルトイレを使用する利用者もいる。ベッド上でのパッドや紙パンツ等の取り換えはない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や、食事メニューを工夫したり、水分を摂って頂き、自然に排便が出来る様、支援しています。それでも出ない場合は薬等主治医・看護師に相談し、対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の日安の曜日は決めています、個々の体調や要望に合わせて介助し、ゆったりと湯船に浸かって頂き、歌を歌ったり、楽しくつろげる時間を大切にしています。	一日置き、週に3回の入浴を支援している。入浴拒否や異性介助の問題は起きておらず、円滑に楽しい入浴が提供されている。季節の湯も立て、冬至の時期には職員が自宅から柚子を持参する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが乱れない様に注意し、日中でも様子を見て休んでもらうようにしています。休息、入床、起床時間は利用者の希望を尊重し、支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法・容量を理解し、翌日1日の分を夜勤者がセットし、再度の内容を確認、服用し飲み込むまで見守ります。薬の変更や追加の場合は受診記録に記載し申し送りをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした家事・レクの役割をお願いし、トランプ・体操・畑仕事・散歩・パズル等各種イベントを、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの為、面会・外出をお断りしており、外出等は出来ませんが、天候と体調に配慮しながら庭でのお茶会や花火、施設でのイベント等を工夫しています。	コロナの感染状況を見ながら外出支援を行っており、感染状況が緩んだ春は花見を楽しむことができた。積極的に屋外に出て外気浴に努め、機会あるごとに広い庭で会食(パーティー等)を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウィルスの為、利用者自身が買い物に出掛ける事が出来なくなりましたが、職員が事前に聞き取りをしたり、好みを把握し、買物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の部屋で、ズームを利用したりリモート面会や、電話で話ができるようにしています。手紙は難しいので年賀状・暑中見舞い等を塗り絵にし、近況を伝えるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・湿度・温度管理には湿度計等を置いて管理をし、快適に過ごして頂けるようにしています。 日常生活の中で様子を見ながら、生活環境を整えて行ける様心掛けています。	コロナの感染拡大防止の観点から、共有空間への立入りを自粛した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいる方や、畳のスペースでテレビを観ていたり、お部屋で休んだり、利用者それぞれにくつろげる環境を作れるよう心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からお話を聞き、落ち着いて過ごせるの環境作りを心掛けています。利用者の大事にしてきた事や物をお部屋に取り入れる様、出来る限り支援しています。	コロナの感染拡大防止の観点から、居室の見学を自粛した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畑仕事、数字計算、体操など、残存能力を把握し、一人で出来ることは職員が見守り、清潔で安全な生活空間になるよう、工夫し確保しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700018		
法人名	有限会社 あいケアー		
事業所名	グループホーム 恵那苑 B館		
所在地	岐阜県恵那市大井町丸池2714番地549		
自己評価作成日	令和4年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoVoCd=2191700018-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな立地を生かし、外にテーブルをだしてのんびりお茶を飲みながら、畑で野菜の収穫や手入れをしたり、つくしをとったりし、その収穫した野菜を利用した食事の献立を利用者様と一緒に考えたり、いちご狩りなど恵那苑の敷地内で行なうことのできる、外での行事を増やして、コロナ禍で外出が思うように出来ない利用者様に楽しんで頂ける様、工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム、玄関等目の届く所に掲げ、いつでも確認できるようになっています、更にミーティングでどの様に実践に繋げていくかを話し合い取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの為、地域の行事がすべて中止となり、交流できる機会がありませんでしたが、今年は花火大会があり利用者様と花火を楽しむことが出来ました		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板や運営推進会議を利用し地域の方々へ向けて情報発信をし認知症について理解、支援・参加して頂けるよう促しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	恵那苑での運営推進会議は出来ませんでした。が、包括、市役所、自治会、ご家族様に現状報告を文章で行い、質問等返信を頂き今後の業務に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市から書面で意見や質問をを頂いたり、行政との互いの協力やケアサービスの向上、周知に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員周知しており、マニュアルを作成したり、県主催の研修に参加したりして、ミーティング、運営推進会議でも取り上げ、事例を参考にし、知識の向上と理解に役立てるよう取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加し内容を共有し、マニュアル等も参考にしながらミーティングで話し合いをし防止に努めています。常に身体観察に気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には制度について理解してもらい、個々に合わせて対応し、必要に応じ今後活用していこうと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者または職員立ち会いの下、家族と丁寧な話をさせていただいています。例を挙げ質疑応答で双方納得した上で契約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の会話から要望を聞いたり、家族様にはケアプランの返信や、電話で生活の様子をお伝えし、意見を頂いたりして、ケアプランや運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で全員ミーティングは難しく、代表者が管理者、職員から個別に話を聞いたり、管理者が職員の意見を代表者に伝えたりと、積極的に意見交換をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の労働状況を把握し、代表と話し合いをしながら出来る限り、就業環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修、連携医の講習には参加できるようにシフトを調整しています。研修後、資料を他の職員に読んでもらったり、内容を報告する機会を作って全職員に周知しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換等を行っています。他のグループホームとの交流の場がもっと多くあれば良いと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族、ご本人と面談し、今までの生き方、要望、情報を聞き取り。担当のケアマネや職員にも相談、笑顔で対応し安心生活できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族に来苑して頂き、話を聞いて家族・本人が一番良い方法を一緒に考え、出来る限り要望に応え、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からお話を聞き、本人の気持ちもふまえ、事前の情報を職員で話し合い、まずは施設の生活に慣れて頂けるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを見極めて、出来ることは本人のペースに合わせてやって頂くようにしています。生活の場なので、声掛けしお手伝いをお願いすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルスの為、面会・外出をお断りしており、たよりや電話で日頃の様子をお伝えし、相談をさせて頂き、気軽に話をして頂ける関係を築くよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙等の支援をしています。ZOOMや電話でお話しが出来る旨をお伝えしたり、毎月郵送で写真付き「恵那苑便り」にて近況をお伝えし、気軽に声掛けして頂けるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の状態を把握し、職員が間に入り、話題やきっかけを作ったり、利用者同士が共に楽しく生活を送れるような関係作りを支援し、楽しく過ごして頂ける様、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所を控えた家族に「お困りの事がありましたら」と退所後の利用者及び家族の相談等、声掛けをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で利用者から思いを聞き出し、管理者・ケアマネ・職員、時には家族と話し合いをし、希望に添えるよう誠意をもって対応するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談にて、ご家族・ケアマネから生い立ちや生活歴を聞き、ケアプランに活かし、出来る限り今までの暮らしに近い状態で過ごせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方・様子は生活記録・申送ノートに残し把握するよう努めています。ケアマネ・担当医からの情報も職員に把握してもらい日々の現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ご本人、ご家族からも話を聞き、随時、見直しを行いケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・申送りノート等、記録を資料としケアプランを作成しています。ミーティングでも利用者一人一人について情報を共有し、介護計画の見直しについて話し合いをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に合わせ、柔軟に対応をしています。家族から要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行う様に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの為に地域のイベント等が中止となってしまう大変残念ですが、利用者の心身状態を把握し、外出出来なくても楽しく過ごせるようスタッフ皆で工夫しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医のままか、月2回訪問診療してもらえる提携医かをご家族に決めて頂きます、歯科等もご家族からの希望があれば支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時と、週に1回看護師に来てもらい相談し病院受診の判断等に反映させています。 急変時にはかかりつけ医や看護師に連絡し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者に合った対応が出来るよう連携に努めています。退院後はサマリー等を参考にその後のケアに活かせるよう心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には終末期のあり方について、家族・管理者・看護師・主治医・ケアマネで、場合によっては、ターミナルも視野に入れ話し合いをし、出来る限り家族の希望に添える様努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。消防署主催のAEDを使った救急救命講習を受けたり、ミーティングで対応の確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練と他に1度の自主訓練、合計年2回行っています。ハザードマップを利用し、地域の方と協力し対応出来るよう自治会との連携をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら、穏やかに過ごして頂けるようコミュニケーションをとり、個人に合わせたケア・言葉かけを心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から希望や思いをくみ取り、色々な場面で自己決定出来るような状況を作ったり、声掛け・見守り等支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活習慣の流れの中で一人一人の体調や気分配慮・尊重し穏やかに過ごして頂けるようなケアを心掛け支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は定期的に美容師に訪問してもらいます。髪を梳いたり、髭剃りなどは支援しています。入浴時の着替や季節の洋服の入れ替えは会話をしながらご自分で出来る様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる様に、献立は季節感や昔からのある料理を取り入れ、利用者と相談してメニュー決めていきます。3時のおやつもホットケーキ等一緒に作ったりもしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものをバランス良く献立し、量や形態については個々に対応する事で栄養の確保に努めています。水分補給は食事・お茶の時間、それ以外の時間でもスポーツドリンクなどを用い、摂取量も把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、出来る方は自身で洗って頂き必要に応じて介助しています。週に1度は義歯を預かり洗浄剤を使用しています。場合によっては歯科医に受診をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握(排泄チェック表を活用)しており、時間をみながら早めに声掛け誘導をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や、食事メニューを工夫したり、水分を摂って頂き、自然に排便が出来る様、支援しています。それでも出ない場合は薬等主治医・看護師に相談し、対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の日安の曜日は決めています、個々の体調や要望に合わせて介助し、ゆったりと湯船に浸かって頂き、歌を歌ったり、楽しくつろげる時間を大切にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが乱れない様に注意し、日中でも様子を見て休んでもらうようにしています。休息、入床、起床時間は利用者の希望を尊重し、支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法・容量を理解し、翌日1日の分を夜勤者がセットし、再度の内容を確認、服用し飲み込むまで見守ります、薬の変更や追加の場合は受診記録に記載し申し送りをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした家事・レクの役割をお願いし、トランプ・体操・畑仕事・散歩・パズル等各種イベントを、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの為、面会・外出をお断りしており、外出等は出来ませんが、天候と体調に配慮しながら庭でのお茶会や花火、施設でのイベント等を工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウィルスの為、利用者自身が買い物に出掛ける事が出来なくなりましたが、職員が事前に聞き取りをしたり、好みを把握し、買物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の部屋で、ズームを利用したりリモート面会や、電話で話ができるようにしています。手紙は難しいので年賀状・暑中見舞い等を塗り絵にし、近況を伝えるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・湿度・温度管理には湿度計等を置いて管理をし、快適に過ごして頂けるようにしています。 日常生活の中で様子を見ながら、生活環境を整えて行ける様心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいる方や、畳のスペースでテレビを観ていたり、お部屋で休んだり、利用者それぞれにくつろげる環境を作れるよう心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からお話を聞き、落ち着いて過ごせるの環境作りを心掛けています。利用者の大事にしてきた事や物をお部屋に取り入れる様、出来る限り支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畑仕事、数字計算、体操など、残存能力を把握し、一人で出来ることは職員が見守り、清潔で安全な生活空間になるよう、工夫し確保しています。		